

あとかき

あしがき（専門支援員）



2013年春、いわて復興応援隊の専門支援員として、いわて定住・交流促進連絡協議会の事務局に席をいただいてから11年。その前年の夏前から募集業務等に携わっていたこともあり、今では、いわて復興応援隊の創設準備以来の歴史を知る、数少ない生き証人となっています。

隊員57人それぞれの写真、やりとりした記録から当時を振り返ると、57のドラマがあったことを思い出されます。いわて復興応援隊のサポートという形で、三陸の復興に僅かながら関わったことを誇りに思います。

報告書作成にあたり、いわて復興応援隊元隊員の皆さん、応援隊受入機関ご担当者を始めとするご関係者の皆さんにご協力をいただき、あらためて感謝申し上げます。

専門支援員 及川 玲

平成 24 年 10 月に「いわて復興応援隊」が発足し 11 年が経ちました。このいわて復興応援隊には、震災後、全国各地から現地の人に「何かしたい、役に立ちたい」という思いの人達が集まり、様々な分野で長きに渡り活動して頂きました。各地で活動する応援隊の方々が、地域の人達に親身に寄り添い活動している姿に、「こんな人達がいるんだ」と、感銘を受け、これまでの自分の考え方を改めて考えさせられました。震災は、あってはならないものではありましたが、この震災が縁で場所も年齢も違う人達が出会う場となり、応援隊の活動は、地域の復興だけではなく地域の人達の心の支えになったと思います。

思い返せば色々な事がありました。この 11 年間で、被災地の現状を応援隊の活動を通して知り、いわて復興応援隊や他県と情報を共有しながら多くの人と出会った事で、各地の復興の活動や人との繋がり、思いやりの心、自分の知らなかった知識や考えなど数多くのことを学びました。「いわて復興応援隊」に関わった時間は、私にとって日々学びの時間となり貴重な財産になりました。

いわて復興応援隊の活動は終了しますが、これからも皆様のご活躍を心からお祈りしております。



専門支援員 斉藤 まゆみ

あとがき（専門支援員）

2012年10月に応援隊1期生が活動を開始して間もなく、沿岸南部で受入体制の不備と活動のミスマッチによる問題が発生し、その後も次々に課題が浮き彫りになりました。

当時、私は、県の三陸交流事業の受託団体として外から応援隊公募作業をサポートする立場でしたが、応援隊受入問題と応援隊の活動支援のために2013年4月から応援隊全般をマネジメントする専門支援員として当協議会事務局に入りました。

岩手県三陸沿岸に県内外から集まった応援隊は、被災地へ寄せる思いを物凄いパワーで支援活動につき込む隊員も多く、受入先や県・事務局とぶつかることも度々あり、お互いに悩みながら成長してきた10年半だったと思います。

任期を終えた後、そのまま地域に残り活動継続する隊員や家族をつくり定住する隊員、新しい道に躍進する隊員も多くその活躍は、今も岩手の復興を押し上げてくれています。

一方、様々な事情により思い半ばで岩手を去っていった隊員も少なくなく、本報告書には、応援隊57名すべての活動を記録できたわけではありません。過去を振り返り、隊員一人一人のこと、その時の出来事の記憶を辿りながらも、この長い年月をざっくりとしか綴れなかったことは申し訳なく思います。

本報告書には無い、数多くの応援隊の足跡は、地域に根を張り、未来の岩手につながるものと信じています。

最後に、2020年7月21日にいわて復興応援隊1期生の岡本花織さんが他界されて今夏で4年となります。本来であれば、仲間と一緒にインタビューで「いわてさんりく恋列車」運営のエピソードを語る笑顔の花織さんを掲載するはずでした。改めてご冥福をお祈りいたします。

花織さん、三陸の空から、ふるさと岩手を見守っててくださいね。



専門支援員 西館 孝子

